

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 22 日現在

機関番号：10107

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20330147

研究課題名(和文) 医療・教育現場で真に役立つ自己制御尺度の開発と応用

研究課題名(英文) Development and application of self-control scale that is truly effective in education and medicine.

研究代表者

高橋 雅治 (TAKAHASHI MASAHARU)

旭川医科大学・医学部・教授

研究者番号：80183060

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・実験心理学

キーワード：学習・行動分析・選択行動・価値割引・自己制御

1. 研究計画の概要

教育・医療の現場で有用とされるいくつかの自己制御検査について、標準化と実用性のための前向きコホート研究、療育や指導の効果进行分析する介入研究、及び、地域差・年齢差等を明らかにするエコロジカル研究を、複数の研究プロジェクトを全国に配置することにより組織的に行う。

教育研究では、以下の研究を行う。

(1) 大阪及び弘前の小学校において、割引検査等の心理検査を行い、及び、衝動性の評定と自己制御検査との相関を明らかにする。

(2) 大阪及び弘前の小学校のクラスで各学年の自己制御傾向を比較する基礎研究を行う。さらに、自己制御を高めるための一斉指導を複数回行い、その前後で各生徒の自己制御傾向を明らかにする。

(3) 弘前市内の特別支援小学校で、衝動性を問題とする児童に対し自己制御獲得の介入研究を実施し、訓練効果の評価としての有用性を確認する。

(4) 大学生を対象として、自己制御検査と勉強行動と学習態度の関係を分析し、学習行動を予測する自己制御検査を明らかにする。

また、医療分野では、以下の研究を行う。

(4) 愛知県内の市のシニアクラブにおいて口腔衛生自己制御尺度を作成する基礎研究を行い、自己制御的に口腔衛生を維持する看護プログラムを開発する。

(5) 2型糖尿病患者に各種の自己制御検査を実施し、さらに退院後の治療経過の生化学的指標を使って前向きコホート研究を行う。これにより、糖尿病の経過、再発しやすさ等を予測する自己制御検査を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

教育分野では、以下の成果を得た。

(1) 弘前大チームは、自己制御の授業実施に伴う小学生の自己制御傾向の変化を見る調査を行い、自己制御尺度間の相関、及び、自己制

御傾向の変化の仕方を明らかにした。また小学生の割引率と学力・知能・学級活動との関連性を縦断的に調査する研究を実施中である。

(2) 大阪市立大学のチームは、大学生の調査研究で、日常場面における自己制御選択質問紙と遅延割引質問紙との関係を明らかにした。また、小学生の研究で、年齢の上昇に伴う割引率の有意な低下を確認した。

(3) 同志社大チームは、心理学部の受講生を対象に、遅延価値割引と科目学習の指標(出席回数、成績、勉強時間等)との相関を分析した。それらの間に相関は見られなかったが、価値割引と授業姿勢の間には明確な相関が見いだされ、遅延価値割引の小さい学生はノートをとり授業を楽しむ傾向が高かった。

医療分野では、以下の成果を得た。

(4) 愛知県立看護大チームは、高齢者を対象に「地域高齢者の保健行動用の自己制御尺度」を開発し、さらに、その有用性を自己制御課題(口腔ケアの実施、磨き残しセルフチェック等)の遂行結果から検討した。その結果、尺度は医療場面における自己制御尺度として妥当であることが示唆された。

(5) 旭川医科大学チームは、入院中の2型糖尿病患者に各種の自己制御性格検査を実施し、健常者との差を明らかにした。また、自己制御傾向・合併症の有無・肥満の程度という要因を組み合わせる退院後のHbA1cの推移を予測する方法が明らかにされた。

3. 現在までの達成度

当初研究目的の達成度は、以下のように評価する。

① おおむね順調に進展している。

その理由としては、(1)から(5)までの研究計画がそれぞれ適切に実施されたこと、それぞれの目的が順調に達成されていること、及び、これまでに得られた成果が教育・医療教育場面で役立つ自己制御尺度の開発と

いうきわめて重要な意義と重要性を持つこと等が上げられる。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、これまでに得たデータを総括し医療・教育場面で真に役立つ自己制御尺度を学会及び社会に提案する。

教育分野では、以下の推進方策を行う。

(1) 弘前大チームは、小学生の遅延割引と学力・知能などとの関連性を見る縦断的研究をさらに進める。また、養護教諭が計画している健康増進のための生活習慣改善プログラムにおいて、その実施の前後の割引率の変化を追跡する。さらに、附属特別支援学校におけるセルフコントロール実験の予備実験を進め、その手法を確立する。

(2) 大阪市立大チームは、自己制御尺度の開発と標準化をさらに押し進め、既存の衝動性尺度との関係を調べることで、この度開発した尺度の妥当性を検討する。一方、小学生を対象とした研究で明らかになった加齢に伴う遅延割引率の低下を論文で報告する。

(3) 同志社大チームは、心理学部の大学生を対象に、学習行動の指標の改善を試みた上で、遅延価値割引と学習行動との関係を検討する。さらに、試験の直前だけ勉強する一夜漬け的な勉強行動をより計画的に勉強する行動に変容するための介入を試みる。

医療分野では以下の推進方策を行う。

(1) 愛知県立看護大チームは、これまでに開発した「地域高齢者の保健行動に関連した自己制御尺度」の研究結果を論文として発表する。さらに、外来通院する糖尿病患者 1000 人を対象に「地域高齢者の保健行動に関連した自己制御尺度」から成る質問紙調査を実施し、HbA1c によって自己制御の状況を判別し、尺度の信頼性と妥当性を検討する。

(2) 旭川医科大学チームは、これまでにを行った 2 型糖尿病の患者の性格検査、合併症の程度、及び、肥満の程度という要因により退院後の HbA1c の推移を予測するための多変量解析を行い、2 型糖尿病の予後を予測する要因が明らかにする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 2 件)

1. 吹田麻耶, 百瀬由美子, 深田順子, 森本紗磨美, 横矢ゆかり, 藤野あゆみ, 坂上貴之, 鎌倉やよい 地域高齢者の口腔保健行動—PRECEDE-PROCEDE モデルを用いた類型化 身体教育医学研究 11、27-35,2010. 査読有

2. Ito, M., Saeki, D., & Green, L. Sharing, discounting, and selfishness: A Japanese-American comparison. The Psychological Record 60, 59-76,2011. 査読有

3. 青山謙二郎・高木悠哉 レポート課題への取り組みと遅延価値割引の程度の関係 行動科学 49, 1-9, 2010. 査読有

4. M. Takahashi, N. Masataka, S. Malaivijitnond, & S. Wongsiri. Future rice is discounted less steeply than future

money in Thailand. The psychological Record 58, 175-190, 2008.

[学会発表] (計 4 4 件)

1. 高橋雅治, 安孫子亜津子, 池上将永, 伊藤博史, 羽田勝計 2 型糖尿病入院患者の性格特性 第 44 回日本糖尿病学会北海道地方会 2011 年 11 月 14 日 札幌

2. 深田順子, 鎌倉やよい, 百瀬由美子, 熊澤友紀, 吹田麻耶, 横矢ゆかり, 坂上貴之, 地域高齢者における保健行動に関連した自己制御尺度の妥当性と信頼性 第 30 回日本看護科学学会学術集会 2010 年 12 月 4 日 札幌

3. 空間美智子・伊藤正人・佐伯大輔 就学児における自己制御の発達的变化:小学生用簡易版遅延割引質問紙の改訂 日本行動分析学会第 28 回年次大会 平成 22 年 10 月 10 日 神戸親和女子大学

4. 青山謙二郎・高木悠哉 心理学の実験実習のレポート作成行動と遅延価値割引の関係 日本行動分析学会第 28 回年次大会 2010 年 10 月 9 日 神戸親和女子大学

5. 平岡恭一 小学生用遅延割引検査の検討と改訂—諸変数との関連と再検査信頼性— 日本心理学会 2010 年 9 月 22 日 大阪大学

[図書] (計 6 件)

1. 佐伯大輔 昭和堂 価値割引の心理学:動物行動から経済現象まで 2011 328

2. 青山謙二郎 二瓶社 食べる—食べなくなる心のしくみ—(行動科学ブックレット 8) 2009 61

3. 高橋雅治 朝倉書店 意思決定と経済の心理学 2009 62-69.

4. 鎌倉やよい 新興医学出版社
3: 摂食・嚥下障害患者に対する食事介助. (馬場尊, 才藤栄一編): 摂食・嚥下リハビリテーション) 2008 104-106

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ:

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/ge/p sycho/kiban-b/>